

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3490200015		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 若紫の家		
所在地 (電話番号)	広島市西区己斐中三丁目53-14 (電話) 082-272-2111		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年7月5日	評価確定日	平成20年7月17日

## 【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	11.1

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 ~ 75,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名	
要介護3	7 名	要介護4	2 名	
要介護5	1 名	要支援2	名	
年齢	平均 82.2 歳	最低 66 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島生協病院・石田歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム若紫の家では、職員全員が地域密着型サービスの理念をよく理解した上で、ホーム独自の理念を策定し、その理念を指針としながら実現に取り組まれている。その一つとしては、事業所は地域の一員として町内会に加入し、管理者は役員を勤めながら、多くの職員と共に地域で開催される盆踊りの企画や準備等に自ら関わりながら、盆踊りには多くの利用者と職員は共に参加している。また、他には、近隣の学校との交流や地域の老人会の行事などにも数多く参加をしながら顔見知りや交流の輪を広げられている。職員の中には広島県外の出身者も数多くあるようで、職員は若くてさわやかであり志をもち、運営者の助言の下でケアの意見の統一を図りながら利用者と家族の支援に努められている。このことを通じて、利用者一人ひとりのペースに合わせてながら、尊厳が保たれた暮らしの中で、利用者の安心感と存在感が伺えた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、評価の意義の理解と活用について話し合われていたが、その後の取り組みとしては職員全員で再度自己評価の目的と活用方法をよく話し合った中で理解し、今回の自己評価には取り組まれている。その結果を踏まえて改善に向けての検討や実践につなげるための努力をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所全体で、自己評価及び外部評価のねらいや活用方法をしっかりと理解しながら、評価に積極的に取り組み、サービスの質の向上に活かしていく姿勢が伺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、事業所からの報告と共に地域の方や家族の代表者等から多くの意見が交わされている。例えば、災害時における地域との協力体制や交流の在り方及び家族の悩みや、思いなどが話し合われており、この結果を踏まえてミーティングで話し合いながら一つひとつ積み上げていくようにしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所内の相談、苦情窓口や運営推進会議の場及び家族等が来訪された時に、率直な意見や要望等がいただけるように、家族等と職員が顔の見える関係づくりや雰囲気作りに留意しながら、出された意見等はミーティングで話し合い、質の向上を目指している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の行事には地域の方が参加をし、また、日頃から気軽に立ち寄っていただき地域での問題などの相談を受けたり、利用者と職員は共に町内の清掃活動や地域の行事等に出るだけ積極的に参加をしており、事業所と職員は地域の一員としての役割を担っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域でその人らしく生活することを支えるいくことを具体的にイメージを持った、また、事業所の役割を目指した内容の理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で理念に触れて意識づけを行っており、また、日々利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域住民の一員として町内会に加入し、積極的に地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでおり、前回の評価結果や課題について点検し、サービスの質の確保に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、外部の人々の目を通じて事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったりして、地域の理解と支援を得るための貴重な機会となっている。		運営推進会議には、所轄の行政機関等の都合もあり出席が中々難しいようであるが、今後共現場や利用者の課題解決のためには、市の理解と支援など必要なことが数多くあるので、引き続き出席への協力依頼を行われることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口に対して、考え方や実態を折に触れて伝えながら関係づくりを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員より手紙で利用者の現在の報告をし、他に電話などで様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から、家族等と職員が顔の見える関係作りや、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、質の向上をめざしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっているが、やむを得ず職員が代わる時は、時期や引き継ぎの面で最善の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修には、出来るだけ多くの職員が受講できるような体制があり、研修報告を全職員が共有できるよう、報告する機会を作っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、関連の事業所や他グループホームとの交流や研修会を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の安心と納得の確保につなげるために、本人と家族等にあった個別の利用開始の調整を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常日頃から、職員は利用者一人ひとりの言動からわかり合えること、支え、支えられることを日常の中でつくりながら関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>少人数の馴染みの関係を活かして、一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努めている。また、ミーティングなどで本人はどうかという視点に立って話しあっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人や家族及び本人をよく知る関係者で本人本位でよく話しあって、利用者主体の暮らしを反映したものとなっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人や家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等と相談しながら、利用者それぞれのかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所が対応しうる支援方法を踏まえて、本人と家族の安心と納得が得られるように、話し合いの機会を設け、関係者全体の方針を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことの徹底をし、日常的な確認と改善に向けた事業所全体の取り組みも行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムを大切にしながら、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にアンケートで利用者の好みを聞き取りながら、これらを基にメニューを工夫したり、また、旬の食材を採り入れながら、利用者と職員が同じ食卓を囲んで楽しく食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入居前の生活習慣や、その日の希望や状態に合わせて柔軟に入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や掃除、食事の片付けなど、本人の気持や力を活かしながら支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や本人の習慣、有する力、希望等に応じて、利用者一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかみながら、見守りや連携プレーで鍵をかけない支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。また、町内会を通じて地域の協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣や日頃の様子を観察しながら柔軟な支援を日常的に積み上げている。また、定期的に管理栄養士の専門的なアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、五感への配慮がなされており、季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる部屋となっている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム若紫の家

評価年月日 2008年 6月 5日

記入年月日 2008年 6月 5日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 介護職 氏名 岸 知洋

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとしての役割の理解に努め、地域住民との交流の中で利用者がその人らしく安心して暮らせるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、職員全員で読み上げ、理解して理念に基づいたものになるよう職員1人ひとりが施設の理念を共有し、利用者と向き合うよう支援している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議、施設内行事などで地域との交流を行い地域密着型サービスとして、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会役員を通じて町内行事の報告、地域問題などの相談をされたり、地域の方に気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いている。 また、散歩途中で近所の方に挨拶したりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会役員になり、入居者の方と一緒に行事に参加したり、町内掃除への参加も努めている。 施設内での交流会などで地域の方にも参加して頂いている。		回覧板でホームの様子を知って頂いたり、老人会へ入会してグランドゴルフへ参加されている入居者の方もおられる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ミーティングを行い町内会を通して地域の方々の要望に応えている。 地域の高齢者等の町内の仕事の代行(町内のゴミ置き場の掃除や回覧板等)		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が評価の意義や活かし方を個々のレベルに合わせ職員に判りやすく伝え、日々の勉強会等の見直し、他の施設の管理者と共有しながら評価を活かし、質の高いサービスを提供できるよう前向きに取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設側からの取り組みや改善策を話したり、地域の方々の理解や支援を得られるように多くの人の参加を促し、参加メンバーから率直な意見を取り入れサービスの向上に活かし、質の確保を行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設や地域の人々の考えを出し合い、運営・サービスについて討論しながら運営推進会議を通して地域の方々と情報を共有し、協働関係を築いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は、成年後見人制度の理解に努め必要と考えられる利用者がそれらを活用するための話し合いを関係機関へ橋渡しをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者と家族との関係性を捉える中で、虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働しながら速やかに対応して防止に努める。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に不安が生じないか、それぞれの立場に立ち、不安や疑問を解決出来るように働きかけ、納得して頂いた上で手続きをし、理解を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティングなどで話し合い、その都度、解決に努めている。また、相談、苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、手紙で日々の暮らしぶりや様子を伝えている。また、金銭管理については、出納状況を記した書状を家族に直接渡して説明するなど、常に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が知りたい点を考慮しながらその状況に合わせて報告を記録に残し、ミーティング等で話し合い、解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングや勉強会等で意見交換の場を設け、管理者が職員の声に耳を傾け、意欲の向上や質の確保に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションで勤務調整を行っており、実状に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動の際は、利用者へ支障をきたさないよう、引継ぎの時間を十分に取り、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>地域密着型サービスの従事者として質の向上を図るため、職員は法人内の中で老人保健施設での研修を受けている。また、法人外でも積極的に研修を受け、研修後はミーティング・勉強会を行い、働きながら技術や知識を身につけている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同系列内でのミーティングや勉強会で情報交換を行い、連携を深めている。また、管理者や職員は同業者の集まる研修会にも参加し交流を図りサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員に出来るだけ早く対応できるスーパーバイザー等の相談員を配置したり、言いにくい事はメール等で対応している。            また、心身を休められるよう休憩場所を設けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員の努力や成果及び現場で起きている状況や変化を把握し、向上心を持って働く環境づくりとなるように努めている。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族を受け止めつつ、本人が置かれている状況を理解し、思いや不安を受け止めて安心してもらえるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人や家族との思いの違いを含め、家族の思いをしっかりと聴き、理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じて出来る事は、速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者1人ひとりが安心し、納得してサービスを利用できるよう、相談の時点から施設に来て短時間でも過ごして馴染んで頂き、家族の希望を聞きながら柔軟な支援をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で共に生活をし、生活の技や文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要求があった場合にはミーティングを行い、対応を話し合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会づくりを支援している。また、面会時には居室でくつろいで頂くように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙、はがき、電話等を使用し、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの季節の行事への参加等、積極的に行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係の理解に努め、情報連携し、全ての職員が共有出来るようにしている。また、利用者が孤立してしまう状況は作らず、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にし、その後の支援に応じる姿勢を示している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画等を活用し、職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握するように努めている。 本人の視点に立ち、意見を出し合い話し合いを行うなどしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画等を活用し、プライバシーに配慮し、職員・利用者・家族との関係を築きながら暮らしを支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が一人ひとりのことを把握できるようにしている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は、入居者本人はもちろん、関係者や家族も入り、意見交換の場を持ち作成している。また、ミーティングを通して作成、見直しを行い、意見交換の場を設けている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族の要望や変化に応じて、3ヶ月毎の定期的な見直しを行っており、必要な見直しは随時行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕の申し送りにて、入居者の変化を確認し、都度記録している。「申し送りノート」を活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握出来る様に徹底している。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の状況や要望に向き合い、その方の状態に応じて同系列の老健や病院への転居が出来るなどの対応をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議への参加のお願いや定期的なピアノ演奏や各機関等（消防、ボランティア、学校等）協力を得ている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて、お墓参りや美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用出来るように努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員会等を通して地域包括支援センターと協働し、地域で支えるためのつながりに努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の回診あり（水・土）24時間受け入れ病院連携（福島生協病院）各医療機関関係者確保（外科・内科・皮膚科・歯科）		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている。（必要な時は往診あり） また、当 理事長林Drに相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと連携を図り、訪問時あるいは電話で相談しながら入居者の健康管理や医療的な支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減するために、家族や医療関係者と相談しながらスムーズな退院につながるよう退院計画を本人・家族・スタッフで話し合い、支援を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居と同時に、重度化した場合や終末期のあり方について本人・家族の意向を確認しながら主治医と話し合い、早い段階で明確にできるようにしている。		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	提携病院や協力医療機関ともに充実もしており、情報交換をして職員全体で率直に話し合っている為、体制は確保できている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	移り住む際は、その方の情報を詳しく伝えてダメージを最小限に留め、安心して移り住めるよう支援している。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</div> 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員一同、入居者に対して敬意を払い、接する様に心掛けている。入居者個人の情報が外部にもれない様に徹底している。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望や好みを把握し表情・動きなどを観察しながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	声掛けはもちろんのこと、一人ひとりの生活のリズムを大切に、入居者本人のペースで支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	職員の一方的な支援ではなく、利用者の個性・希望・生活歴において好みや意向を尊重して支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的にアンケートを取り、好みの食べ物・季節に合った食事を提供しており、利用者と一緒に食事を味わいながら、楽しめるよう支援している。 また、調理の下準備を手伝ってもらったり、食後は、皿洗いなど、後片付けを入居者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	他の入居者への配慮を行いながら、自宅にいる時と同様に馴染みの嗜好品を楽しめるように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	最初から出来ない決め付けず、できるところまでの見守りを行い、出来ない部分はさり気なくカバーするように利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合に合わせるのではなく、基本的には利用者の希望（時間帯・長さ）に合わせて支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの自然な生活リズムを大切に、その人のペースで生活が送れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合った役割や楽しみを最大限に活かし園芸、掃除、食器洗い等、個々の力量、好みに合わせた支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の希望や力に応じて、家族と良く話し合い、小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるように支援する等、お金がある安心感や満足感を感じて頂けるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	重度の方でも外出が困難だと思わず、利用者の希望に沿って買い物や散歩に出かけられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族の方と相談をしながら、利用者が行きたいところを本人や家族から把握しており、基本的には家族が同行で行っている。 (ふるさと訪問、墓参り等)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮しながら、書中見舞い、年賀状等を書いて頂くよう支援しており、電話の利用があれば必要によっては、介助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は、入居者がお茶を出し歓迎する等、家庭的な雰囲気を大切にしている。 宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行う等もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングを通して勉強会のテーマにあげるなどで職員一同認識しており、拘束のないケアを常日頃、心掛けている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、定時の見廻りや、日中は常にフロア全体を見回すことのできる場所に位置し、プライバシーに配慮しながら、さり気なく観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意の必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の取り決めを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒記録等を活用しながら、再発防止策を都度話し合っている。 また、緊急事態の対策マニュアルにより、全ての職員が内容を把握している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	理事長・看護師の指示・指導により、全ての職員が対応出来る様にマニュアルを作成している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、利用者と共に防災訓練を行っており、消火器や避難路の確保等の点検を行っている。 また、町内会を通じて火災等が起きた時のご協力の理解を得ている。		今後は地域住民を交えた消防訓練を実施していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族等と普段からの関係作りを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	看護師などによる毎日バイタルチェックを行っている。職員一同、異常の早期発見に細心の注意を払っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の知識は、ミーティング、勉強会にて看護師を交えて行っている服薬は医師の指示通りに支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	運動（散歩、自転車こぎ）への配慮や食事・排泄・活動状態を見直し、自然排便を促す工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	イソジンを使ってのうがいの支援や、毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は、日常的に支援している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりに合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食をたべやすくきざんだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを基に勉強会を行い、当理事長林Drによる取り決めを基に実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔保持を怠らない。場合によっては、アルコール殺菌する等工夫している。 手洗いにも気を付けており、食材の管理も徹底している。食器は食洗機にかける等清潔に考慮している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、草花を季節ごとに植えかえる等工夫し、訪問しやすい環境を作る様心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気が出る色を選択し、季節感を表わす為、飾りを変えたりしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団欒できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れた家具や、入居時に使いやすい物を購入したりと、入居者本人や家族と相談しながら安心できる場所作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、全棟の窓を開け、換気を行っており、室温は空調により、季節や入居者の体調に応じて適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺りや階段に滑り止め等を設置しており、安全かつ快適に過ごせるよう様工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	<p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室の入り口には、目線に合わせて名前を貼り、迷わない様工夫している。また、トイレや浴室等も分かりやすく明記している。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダからの景色を楽しまれたり、天気の良い日は日光浴をされている。洗濯物を干されている方、外回りの植木に水をやる等、皆さん自由に過ごされている。 また、時には外で食事もしている。</p>		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム若紫の家

評価年月日 2008年 6月 5日

記入年月日 2008年 6月 5日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 介護職 氏名 岸 知洋

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとしての役割の理解に努め、地域住民との交流の中で利用者がその人らしく安心して暮らせるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、職員全員で読み上げ、理解して理念に基づいたものになるよう職員1人ひとりが施設の理念を共有し、利用者と向き合うよう支援している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議、施設内行事などで地域との交流を行い地域密着型サービスとして、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会役員を通じて町内行事の報告、地域問題などの相談をされたり、地域の方に気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いている。 また、散歩途中で近所の方に挨拶したりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会役員になり、入居者の方と一緒に行事に参加したり、町内掃除への参加も努めている。 施設内での交流会などで地域の方にも参加して頂いている。		回覧板でホームの様子を知って頂いたり、老人会へ入会してグランドゴルフへ参加されている入居者の方もおられる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ミーティングを行い町内会を通して地域の方々の要望に応えている。 地域の高齢者等の町内の仕事の代行(町内のゴミ置き場の掃除や回覧板等)		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が評価の意義や活かし方を個々のレベルに合わせ職員に判りやすく伝え、日々の勉強会等の見直し、他の施設の管理者と共有しながら評価を活かし、質の高いサービスを提供できるよう前向きに取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設側からの取り組みや改善策を話したり、地域の方々の理解や支援を得られるように多くの人の参加を促し、参加メンバーから率直な意見を取り入れサービスの向上に活かし、質の確保を行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設や地域の人々の考えを出し合い、運営・サービスについて討論しながら運営推進会議を通して地域の方々と情報を共有し、協働関係を築いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は、成年後見人制度の理解に努め必要と考えられる利用者がそれらを活用するための話し合いを関係機関へ橋渡しをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者と家族との関係性を捉える中で、虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働しながら速やかに対応して防止に努める。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に不安が生じないか、それぞれの立場に立ち、不安や疑問を解決出来るように働きかけ、納得して頂いた上で手続きをし、理解を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティングなどで話し合い、その都度、解決に努めている。また、相談、苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、手紙で日々の暮らしぶりや様子を伝えている。また、金銭管理については、出納状況を記した書状を家族に直接渡して説明するなど、常に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が知りたい点を考慮しながらその状況に合わせて報告を記録に残し、ミーティング等で話し合い、解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングや勉強会等で意見交換の場を設け、管理者が職員の声に耳を傾け、意欲の向上や質の確保に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションで勤務調整を行っており、実状に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動の際は、利用者へ支障をきたさないよう、引継ぎの時間を十分に取り、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>地域密着型サービスの従事者として質の向上を図るため、職員は法人内の中で老人保健施設での研修を受けている。また、法人外でも積極的に研修を受け、研修後はミーティング・勉強会を行い、働きながら技術や知識を身につけている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同系列内でのミーティングや勉強会で情報交換を行い、連携を深めている。また、管理者や職員は同業者の集まる研修会にも参加し交流を図りサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員に出来るだけ早く対応できるスーパーバイザー等の相談員を配置したり、言いにくい事はメール等で対応している。            また、心身を休められるよう休憩場所を設けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員の努力や成果及び現場で起きている状況や変化を把握し、向上心を持って働く環境づくりとなるように努めている。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族を受け止めつつ、本人が置かれている状況を理解し、思いや不安を受け止めて安心してもらえるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人や家族との思いの違いを含め、家族の思いをしっかりと聴き、理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じて出来る事は、速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者1人ひとりが安心し、納得してサービスを利用できるよう、相談の時点から施設に来て短時間でも過ごして馴染んで頂き、家族の希望を聞きながら柔軟な支援をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で共に生活をし、生活の技や文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要求があった場合にはミーティングを行い、対応を話し合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会づくりを支援している。また、面会時には居室でくつろいで頂くように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙、はがき、電話等を使用し、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの季節の行事への参加等、積極的に行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係の理解に努め、情報連携し、全ての職員が共有出来るようにしている。また、利用者が孤立してしまう状況は作らず、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にし、その後の支援に応じる姿勢を示している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画等を活用し、職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握するように努めている。 本人の視点に立ち、意見を出し合い話し合いを行うなどしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画等を活用し、プライバシーに配慮し、職員・利用者・家族との関係を築きながら暮らしを支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が一人ひとりのことを把握できるようにしている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は、入居者本人はもちろん、関係者や家族も入り、意見交換の場を持ち作成している。また、ミーティングを通して作成、見直しを行い、意見交換の場を設けている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族の要望や変化に応じて、3ヶ月毎の定期的な見直しを行っており、必要な見直しは随時行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕の申し送りにて、入居者の変化を確認し、都度記録している。「申し送りノート」を活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握出来る様に徹底している。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の状況や要望に向き合い、その方の状態に応じて同系列の老健や病院への転居が出来るなどの対応をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議への参加のお願いや定期的なピアノ演奏や各機関等（消防、ボランティア、学校等）協力を得ている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて、お墓参りや美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用出来るように努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員会等を通して地域包括支援センターと協働し、地域で支えるためのつながりに努めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の回診あり（水・土）24時間受け入れ病院連携（福島生協病院）各医療機関関係者確保（外科・内科・皮膚科・歯科）		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている。（必要な時は往診あり） また、当 理事長林Drに相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと連携を図り、訪問時あるいは電話で相談しながら入居者の健康管理や医療的な支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減するために、家族や医療関係者と相談しながらスムーズな退院につながるよう退院計画を本人・家族・スタッフで話し合い、支援を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居と同時に、重度化した場合や終末期のあり方について本人・家族の意向を確認しながら主治医と話し合い、早い段階で明確にできるようにしている。		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	提携病院や協力医療機関ともに充実もしており、情報交換をして職員全体で率直に話し合っている為、体制は確保できている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	移り住む際は、その方の情報を詳しく伝えてダメージを最小限に留め、安心して移り住めるよう支援している。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</div> 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員一同、入居者に対して敬意を払い、接する様に心掛けている。入居者個人の情報が外部にもれない様に徹底している。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望や好みを把握し表情・動きなどを観察しながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	声掛けはもちろんのこと、一人ひとりの生活のリズムを大切に、入居者本人のペースで支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	職員の一方的な支援ではなく、利用者の個性・希望・生活歴において好みや意向を尊重して支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的にアンケートを取り、好みの食べ物・季節に合った食事を提供しており、利用者と一緒に食事を味わいながら、楽しめるよう支援している。 また、調理の下準備を手伝ってもらったり、食後は、皿洗いなど、後片付けを入居者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	他の入居者への配慮を行いながら、自宅にいる時と同様に馴染みの嗜好品を楽しめるように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	最初から出来ない決め付けず、できるところまでの見守りを行い、出来ない部分はさり気なくカバーするように利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合に合わせるのではなく、基本的には利用者の希望（時間帯・長さ）に合わせて支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの自然な生活リズムを大切に、その人のペースで生活が送れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合った役割や楽しみを最大限に活かし園芸、掃除、食器洗い等、個々の力量、好みに合わせた支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の希望や力に応じて、家族と良く話し合い、小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるように支援する等、お金がある安心感や満足感を感じて頂けるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	重度の方でも外出が困難だと思わず、利用者の希望に沿って買い物や散歩に出かけられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族の方と相談をしながら、利用者が行きたいところを本人や家族から把握しており、基本的には家族が同行で行っている。 (ふるさと訪問、墓参り等)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮しながら、書中見舞い、年賀状等を書いて頂くよう支援しており、電話の利用があれば必要によっては、介助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は、入居者がお茶を出し歓迎する等、家庭的な雰囲気を大切にしている。 宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行う等もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングを通して勉強会のテーマにあげるなどで職員一同認識しており、拘束のないケアを常日頃、心掛けている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、定時の見廻りや、日中は常にフロア全体を見回すことのできる場所に位置し、プライバシーに配慮しながら、さり気なく観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意の必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の取り決めを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒記録等を活用しながら、再発防止策を都度話し合っている。 また、緊急事態の対策マニュアルにより、全ての職員が内容を把握している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	理事長・看護師の指示・指導により、全ての職員が対応出来る様にマニュアルを作成している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、利用者と共に防災訓練を行っており、消火器や避難路の確保等の点検を行っている。 また、町内会を通じて火災等が起きた時のご協力の理解を得ている。		今後は地域住民を交えた消防訓練を実施していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族等と普段からの関係作りを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	看護師などによる毎日バイタルチェックを行っている。職員一同、異常の早期発見に細心の注意を払っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の知識は、ミーティング、勉強会にて看護師を交えて行っている服薬は医師の指示通りに支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	運動（散歩、自転車こぎ）への配慮や食事・排泄・活動状態を見直し、自然排便を促す工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	イソジンを使ってのうがいの支援や、毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は、日常的に支援している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりに合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食をたべやすくきざんだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを基に勉強会を行い、当理事長林Drによる取り決めを基に実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔保持を怠らない。場合によっては、アルコール殺菌する等工夫している。 手洗いにも気を付けており、食材の管理も徹底している。食器は食洗機にかける等清潔に考慮している。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、草花を季節ごとに植えかえる等工夫し、訪問しやすい環境を作る様心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気が出る色を選択し、季節感を表わす為、飾りを変えたりしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団欒できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れた家具や、入居時に使いやすい物を購入したりと、入居者本人や家族と相談しながら安心できる場所作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、全棟の窓を開け、換気を行っており、室温は空調により、季節や入居者の体調に応じて適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺りや階段に滑り止め等を設置しており、安全かつ快適に過ごせるよう様工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	<p>わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室の入り口には、目線に合わせて名前を貼り、迷わない様工夫している。また、トイレや浴室等も分かりやすく明記している。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダからの景色を楽しまれたり、天気の良い日は日光浴をされている。洗濯物を干されている方、外回りの植木に水をやる等、皆さん自由に過ごされている。 また、時には外で食事もしている。</p>		